

第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会の企画書

Ver.0

第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 準備委員会

【連絡事項】

- ・学術大会等を開催する場合は、次ページ以降のフォーマットにて企画書・日程表・予算書をご提出ください。
- ・上記の企画書名や「学術大会概要」のページは、研究会、サテライト集会など企画する内容により、学術大会長名等は適宜ご変更ください。
- ・本企画書・日程表・予算書は、学術大会規程に基づき、理事会へ議題として提出されます。

第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会企画書

開催趣意

テーマ：運動器理学療法の未来へ向けた開拓－科学を技術へ

理学療法の学術的歴史背景をみると，“科学”と“技術”というキーワードは繰り返し扱われてきています。経験則から生まれた理学療法の技術に対して理論を後付けして体系化する、逆に構築した理論に基づいて理学療法の技術が生まれる、という両極端な手続きが混在しながらも、進歩してきました。いずれにおいても理論は徹底的に科学に基づかなければならないとの考えのもと、科学と技術の話題は尽きませんでした。

科学といえば、大半は Exact Sciences を思い浮かべるはずです。厳格な環境を準備し厳密な統制下で得られた実験データから導かれる、普遍性の担保できる理論こそ科学的理論と認めます。そうした科学的理論に基づく技術こそが理学療法の技術体系を確立すると信じられてきたはずですが、理学療法学を確立するために解剖学、生理学や物理学の応用は枚挙にいとまがなく、またそれが王道ともいえるべき手段でした。このような歴史的経過を経て、いまなお科学と技術を改めて考える必要はあるか？という疑問を持つとしても不思議ではありません。しかし、科学と技術は時代背景によって変化しなければならないものです。

根拠に基づく理学療法（EBPT）という用語は浸透しており、まさに理学療法にとって『“科学に基づく”根拠』は不可欠のようにみえますが、この捉え方には十分な注意が必要です。科学の定義は未だ明確ではないのに、Exact Sciences は科学の一部でしかない以上、仮に現在の理論体系が精密な知見に基づくとして“科学に基づく”といえるでしょうか。理学療法の技術を確立させる科学とはどうでなければならないかを具体的に示す必要があると思います。これはまた、研究と臨床の乖離隔離としても表される原因かもしれません。

本学術大会では、改めて理学療法学を確立するために必要な、科学とは何か？技術とは何か？を再考し、運動器理学療法の未来へ向けた開拓のきっかけをつくらうと考えています。本学会の進むべき未来を共有し、運動器理学療法の発展に寄与できれば幸いです。

第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会
学術大会長 対馬 栄輝

学術大会概要

1. 名称 第12回日本運動器理学療法学会学術大会
2. 会期 2024年9月14日(土曜日)～9月15日(日曜日)
3. 会場 パシフィコ横浜
4. 学術大会長 対馬 栄輝(弘前大学大学院保健学研究科)
副学術大会長 金村 尚彦(埼玉県立大学大学院保健医療福祉学専攻)
5. 準備委員長 東 裕一(日本保健医療大学理学療法学科)
6. 準備委員 ○○ ○○(所属名)
○○ ○○(所属名)
○○ ○○(所属名)
○○ ○○(所属名)
○○ ○○(所属名)
○○ ○○(所属名)
7. 参加者見込 2,500人
(会場収容可能人数もしくは前年度実績から想定される見込人数)
8. 最少催行人数 2,000人
(予算書上で収支同額となる人数)
9. 一般演題 360題(口述276題、ポスター84題)
10. 事務局 (大学・病院名) ○○○○○○○○
(担当者名)
TEL :
E-mail :
11. 学術大会企画 ※企画の項目は適宜修正してください
 - 学術大会長講演
テーマ ○○○○○○○○
大会長 ○○ ○○
司会 ○○ ○○先生(所属)
 - 特別講演
テーマ ○○○○○○○○
講師 ○○ ○○先生(所属)
司会 ○○ ○○先生(所属)
 - 教育講演
テーマ ○○○○○○○○
講師 ○○ ○○先生(所属)
司会 ○○ ○○先生(所属)
 - シンポジウム
テーマ ○○○○○○○○
シンポジスト ○○ ○○先生(所属)
○○ ○○先生(所属)
○○ ○○先生(所属)
司会 ○○ ○○先生(所属)

1 2. 参加ポイント

参加ポイントについての説明

①対面・Web開催（リアルタイム配信）のみ場合

30分-0.5点で計算

例：1日（9時～17時）の場合 8時間-8点

②オンデマンド配信のみの場合

点数計算は①と同様

オンデマンド配信で参加ポイントを取得するための条件

- 1) オンデマンド配信の参加者管理ができること（入室管理ができること）
- 2) 双方向等による質疑応答が可能であること

③対面・Web開催（リアルタイム配信）+オンデマンド配信の場合

オンデマンド配信の参加のみを可能とする際には ②の1) 2) の条件にプラスして以下の3) の条件を満たすこと

- 3) オンデマンド配信する時間が最低限リアルタイムと同時間数であること

※2日間開催であっても、1日ごとのポイント分割はできない。

※リアルタイムとオンデマンド両方での2重でのポイント取得は不可

※オンデマンド配信でも付与するポイントは学術大会開催時間に準ずる

●企画書には以下の部分を記載する。

- ・開催形式：対面・Web・オンデマンド配信など
- ・参加ポイント：○時間 - ○点
- ・オンデマンド配信：実施する / 実施しない

オンデマンド配信で参加ポイントを取得するための条件	チェック
1) オンデマンド配信の参加者管理ができる 確認方法をここに記載する	○ or ×
2) 双方向等による質疑応答が可能である 実施方法をここに記載する	○ or ×
3) オンデマンド配信する時間が最低限リアルタイムと同時間数である 1 3. 日程表にオンデマンド配信する講演やセッションがわかるように記載する	○ or ×

13. 日程表

別添エクセルのシート「日程表」に記入し、添付してください。

14. 予算書

別添エクセルのシート「予算書」に記入し、添付してください。